

第3章

めざす将来像・

将来像を達成するための考え方

- 1 めざす将来像（スローガン）・・・・・・・・・・ 18
- 2 めざす将来像を達成するための基本的な考え方・ 19
- 3 めざす将来像を達成するための施策の構成・・・ 24



開運橋からの眺望

1 めざす将来像（スローガン）

未来へとみんなが築く， 自然と“わ”になるまち“もりおか”

盛岡市環境基本条例第3条の「基本理念」、第7条の「施策の基本方針」を踏まえ、本計画のめざす将来像（スローガン）として、「未来へとみんなが築く，自然と“わ”になるまち“もりおか”」を掲げます。

「未来へとみんなが築く」

「未来へ」は、盛岡の良好な環境を将来の世代に引き継ぐという意味を込めるとともに、本計画がSDGsのゴールも目指すものであることを表しています。

「みんな」には、盛岡市環境基本条例の基本理念にある環境保全及び創造を、すべての者のそれぞれの役割分担の下に自主的かつ積極的に行うことを表しています。

「築く」には、従来の環境にかかわる施策も継続しつつ、環境・経済・社会の総合的向上といった分野横断的な取組を通して“もりおか”をつくりあげていくことや、時に見過ごされがちだった各地域の資源、特性に改めて目を向けることで、その価値に「気付く」という意味を込めています。

「自然と“わ”になる」

「自然」とは、盛岡の環境の特徴でもある豊かな水辺や緑、美しい景観のまち並みや歴史的・文化的遺産などを表します。

「わ」には、「環」・「和」・「輪」のそれぞれにおいて意味を込めています。「環」はさまざまな資源が循環する自立・分散型の社会の形成、「和」は“自然環境と都市機能の調和”をイメージし、「輪」には市民や事業者との協働の下に各種の施策相互の有機的な連携（パートナーシップ[※]）も表しています。



岩山から望む市街地

2 めざす将来像を達成するための基本的な考え方

(1) 持続可能な開発目標（SDGs）の考え方の活用

SDGsは、それぞれの目標は独立しているものではなく不可分であり、総合的に取り組むことが必要とされています。例えば、私たちの暮らしや企業の経済活動は、環境という基盤の上に成り立っており、環境の復元力を超えて資源を採取し、環境に負荷を与える物質を排出し続ける経済発展は持続的なものとはいえません。逆に、環境を重んじるために経済活動を止めることも私たちの暮らしが成り立たないものとなります。それぞれの課題が相互に関連していることを認識し、施策の推進に当たっては、トレードオフ*の関係にある問題が生じた場合でも、どちらかを犠牲にするのではなく、分野横断的な解決策を見出し、同時解決（マルチベネフィット*）を目指すことが重要となります。

本市のめざす将来像の実現に向けて計画を推進するに当たっては、トレードオフの問題が生じた場合にもSDGsの考え方を活用し、同時解決を目指す取組を推進していくこととします。

**SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS**

The logo for the Sustainable Development Goals (SDGs) is positioned between the words 'GO' and 'ALS' in the text 'GOALS'. It consists of a circular arrangement of 17 colored segments, each representing one of the 17 goals.

SDGsのゴールと環境施策の関連性

環境基本計画に関連するゴール	SDGsの達成に貢献する主な施策
 <p>2 飢餓をゼロに</p>	<p>ライフスタイルの転換，3Rの推進</p>
 <p>3 すべての人に健康と福祉を</p>	<p>暮らしの基盤となる生活環境の保全，魅力的な景観の保全・形成</p>
 <p>4 質の高い教育をみんなに</p>	<p>環境啓発の推進，環境保全活動を担う人材の育成</p>
 <p>6 安全な水とトイレを世界中に</p>	<p>森林・農地・水辺の保全，安全・安心な生活環境の保全</p>
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<p>再生可能エネルギー等の普及促進，エネルギーの効率的な利用の促進</p>
 <p>8 働きがいも経済成長も</p>	<p>環境ビジネスの拡大</p>
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<p>環境ビジネスの拡大，新たな技術の活用，低炭素型のまちづくりの推進</p>
 <p>11 住み続けられるまちづくりを</p>	<p>自然・歴史・快適な都市機能が調和したまちづくり，災害リスクを考慮した地域づくり</p>
 <p>12 つくる責任，つかう責任</p>	<p>環境ビジネスの拡大，3Rの推進</p>
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<p>二酸化炭素吸収源の確保，気候変動への適応</p>
 <p>14 海の豊かさを守ろう</p>	<p>暮らしの基盤となる生活環境の保全，不法投棄の防止と環境美化の推進</p>
 <p>15 陸の豊かさを守ろう</p>	<p>野生動植物の生息・生活環境の保全と人との共生，森林・農地・水辺の保全</p>
 <p>17 パートナーシップで目標を達成しよう</p>	<p>ネットワークづくり，各主体との協働の推進</p>

(2) 環境・経済・社会の総合的向上に向けた取組

本市における環境の課題には、化石燃料の使用に伴うエネルギー代金の域外流出等の経済的な側面、人口減少による環境保全等に取り組む担い手の不足といった社会的な側面が見られるなど、課題は複雑化しており、分野横断的な課題解決のためには、環境・経済・社会の総合的向上に向けた取組が重要です。

経済社会活動が健全で恵み豊かな環境を基盤としていることを念頭に置きつつ、めざす将来像の実現に向け、経済・社会の課題解決にもつながるような分野横断的な取組を行っていくこととします。



再生可能エネルギーの活用（ソーラーガーデン姫神）



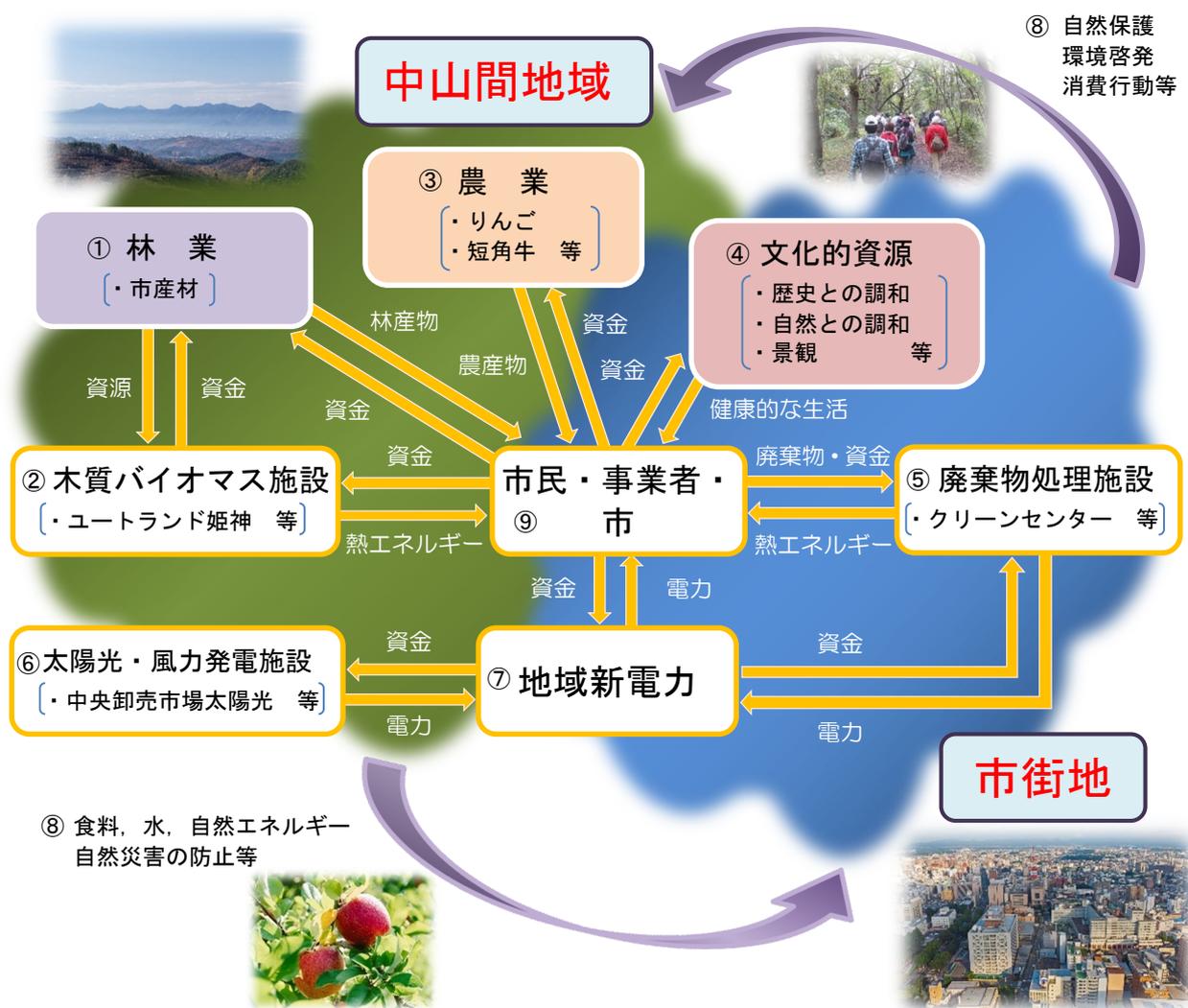
岩山から望む市街地の夜景

(3) 本市における地域循環共生圏の創造

国の第五次環境基本計画では、目指すべき社会の姿として、「地域循環共生圏」の創造が掲げられています。地域循環共生圏とは、地域ごとに異なる資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、それぞれの地域の特性に応じたつながりを構築するというものです。

本市は、都市的な機能、歴史的な環境、豊かな自然環境など地域資源に恵まれた地域であり、それぞれの地域は資金や資源等の提供などにより多種多様なつながりが生じています。

めざす将来像の達成のためには、各々の地域が持続可能である必要があります。地域資源をこれまで以上に活用することで地域の活性化につなげていくことを目指します。また、地域資源は、市域に限らず周辺市町村も含めることで効率的な活用につながる事もあることから、広域での取組といった視点も踏まえることとします。



本市における地域循環共生圏の概念図

①市域面積の約73%を占める森林は、本市の豊かな資源の一つであり、中山間地域の活性化や防災等の多面的機能の発揮が期待されるものです。森林資源の有効活用と森林の適正な管理のため、木材を建築材料や木質バイオマス燃料として利用することは、人と自然との共生や地域内における資源・資金の循環へとつながっていきます。

②木質バイオマスについては、ユートランド姫神のチップボイラー*や市の庁舎のペレットストーブ等、複数の機器が設置され、近年では、趣味的な面での人気も高まっており、一般家庭における導入も増加しています。木質バイオマスの普及は、地域内におけるエネルギーの循環、木材需要の高まりによる林業の活性化、カーボンニュートラル*という性質により地球温暖化の防止等に貢献するものです。

③本市には、盛岡りんごやもりおか短角牛など、魅力ある特産品が複数あります。これらの認知度の向上や利用促進・消費拡大を図ることは、農業の活性化だけではなく、地産地消による環境負荷の低減や、食や農への意識啓発などさまざまな効果が期待されるものです。

④豊かな水辺や緑、歴史的・文化的な遺産、それらが織りなす美しい景観などは、盛岡の環境の特徴であり、人々にうるおいや安らぎを与えるものです。人々が長い年月をかけて築き、継承してきたこれらの環境を守り続け、そして、その魅力を最大限に活かすことによって、未来につなげていくことが求められます。

⑤日々排出される廃棄物を資源としてとらえ、循環的に使用することや処理工程において得られるエネルギーを有効活用することは、自立・分散型の社会に向けた取組の一つです。本市では、クリーンセンターにおいて廃棄物の燃焼によって得られるエネルギーを発電や余熱利用施設の熱源として活用しているほか、堆肥化によって廃棄物系バイオマスをも有効利用している地域もあり、このような取組を今後も継続していく必要があります。

⑥本市には、中央卸売市場に設置してあるメガソーラーや姫神ウィンドパーク（風力発電設備）など多くの再生可能エネルギー施設が存在しており、住宅においても太陽光発電設備の導入が進んでいます。今後も、気候変動対策や分散型エネルギー*の取組として、再生可能エネルギーのさらなる普及が求められます。

⑦地域密着型の電力小売事業者である地域新電力*は、エネルギーの地産地消*により電力を地域内で循環させる上で必要不可欠な存在です。地域新電力の存在により、エネルギー事業においてさまざまな可能性が広がり、環境によるさまざまな付加価値を最大限活用することができることから、今後、地域新電力を活用した取組を進める必要があります。

⑧本市には、北東北の交流拠点や県都としての都市機能を有する市街地と、多種多様な自然環境を有し農林業の場となる中山間地域の両方が存在しています。それぞれの地域が特性に応じて、互いに補完し、支え合うことが自立分散型の社会を形成することにつながります。

⑨それぞれの取組を推進するためには、市民・事業者・市がそれぞれの立場で、それぞれの役割に応じて環境に配慮した行動を実践し、かつ、さまざまなパートナーシップのもと、お互いに連携と協力を図っていくことが重要です。

3 めざす将来像を達成するための施策の構成

(1) 分野横断的施策の設定

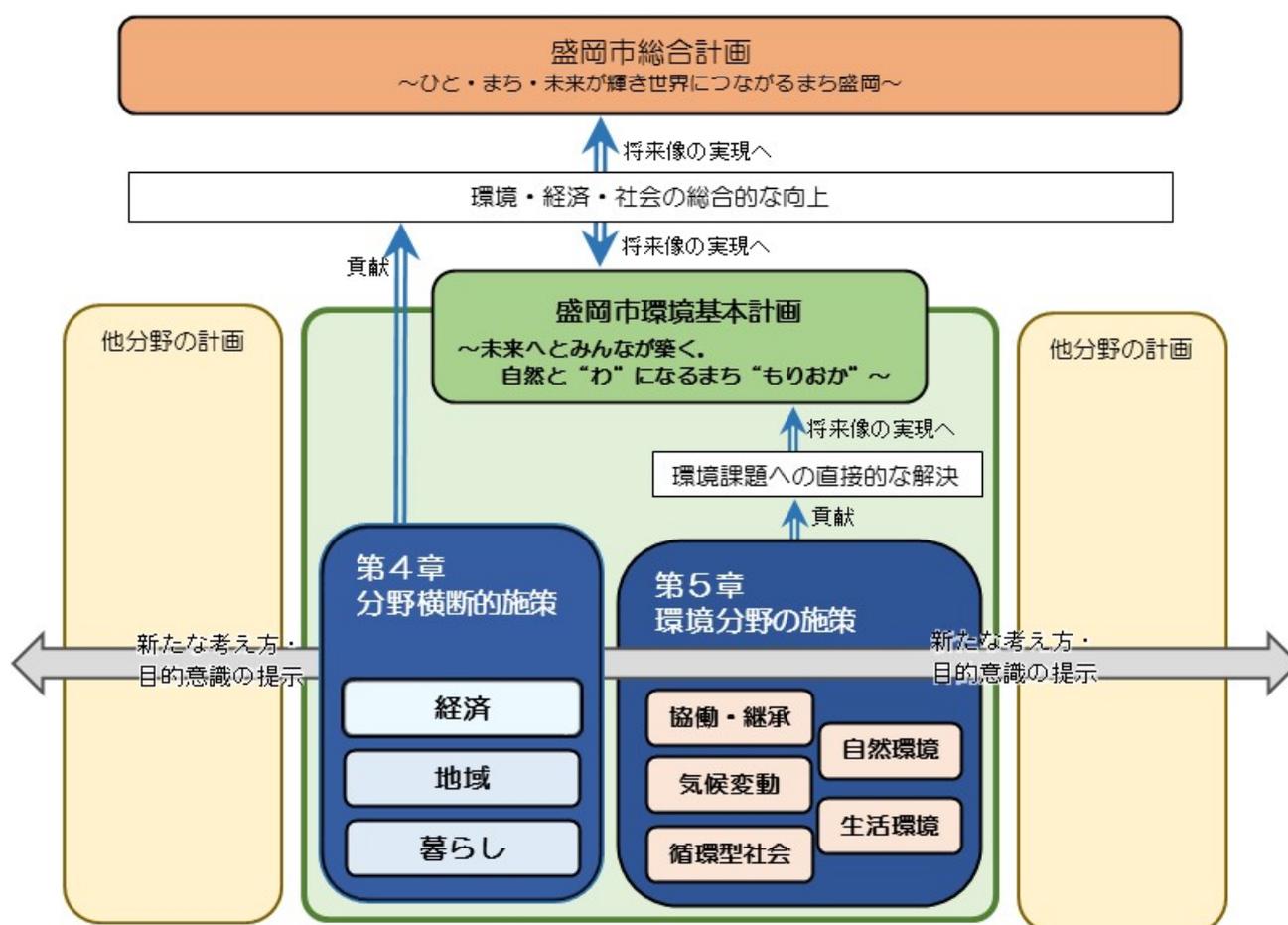
めざす将来像を実現するため、総合的かつ分野横断的な視点で重点的に取り組む施策を「経済」、「地域」、「暮らし」をキーワードとして設定しました。

分野横断的施策は、環境分野以外のさまざまな分野の施策も含まれており、事業を実施する上でのSDGsの考え方や新たな目的意識を提示するものであり、それによってそれぞれの分野における事業目的だけではなく、あらゆる分野への貢献を認識し、環境・経済・社会の総合的向上を目指して実施されるものです。

なお、それぞれの施策は、内容として重複する部分もありますが、一つの施策を実施することで複数の課題に貢献する施策を実施することにもつながり相乗効果が生じます。

(2) 環境分野の施策の展開

これまで実施してきた環境分野における施策については、環境課題に対する直接的な対策と分野横断的施策を支える施策として、継続して推進していく必要があります。環境分野ごとに基本方針を定め、施策の方向性を明確にし、分野ごとに施策を展開することとします。



本計画における施策の構成